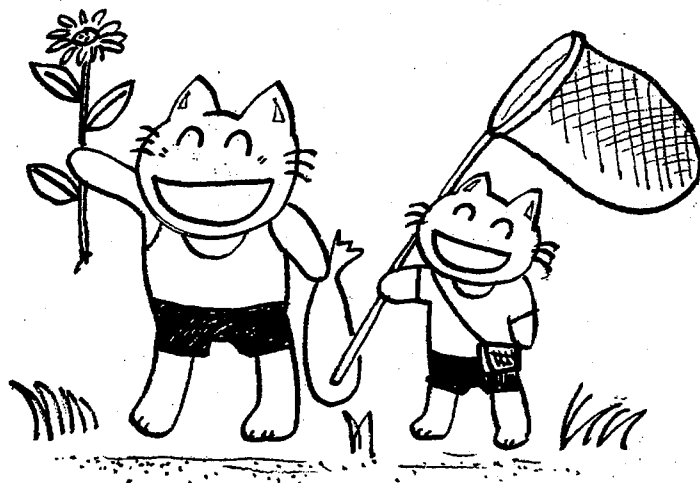


改訂版

標本のつくり方

昆虫標本編



市立市川自然博物館

はじめに

この冊子は、自然博物館で実際に調査や研究のために作成する動植物の標本の作り方の基本をご紹介しますものです。

きちんと作成され、記録を記載された標本は、地域の自然の記録として貴重な資料になります。

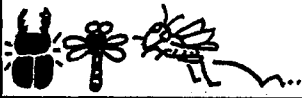
標本を作製するためには、採集してから、完成するまでに何日かの時間が必要です。

特に植物や海藻の押し葉標本や昆虫の標本は、きちんとした手順と処理、毎日の手入れを行って、ようやく完成します。

こうしてしっかりと作成された標本は、長期間の保存にも耐え、地域の自然の記録として活用することができます。

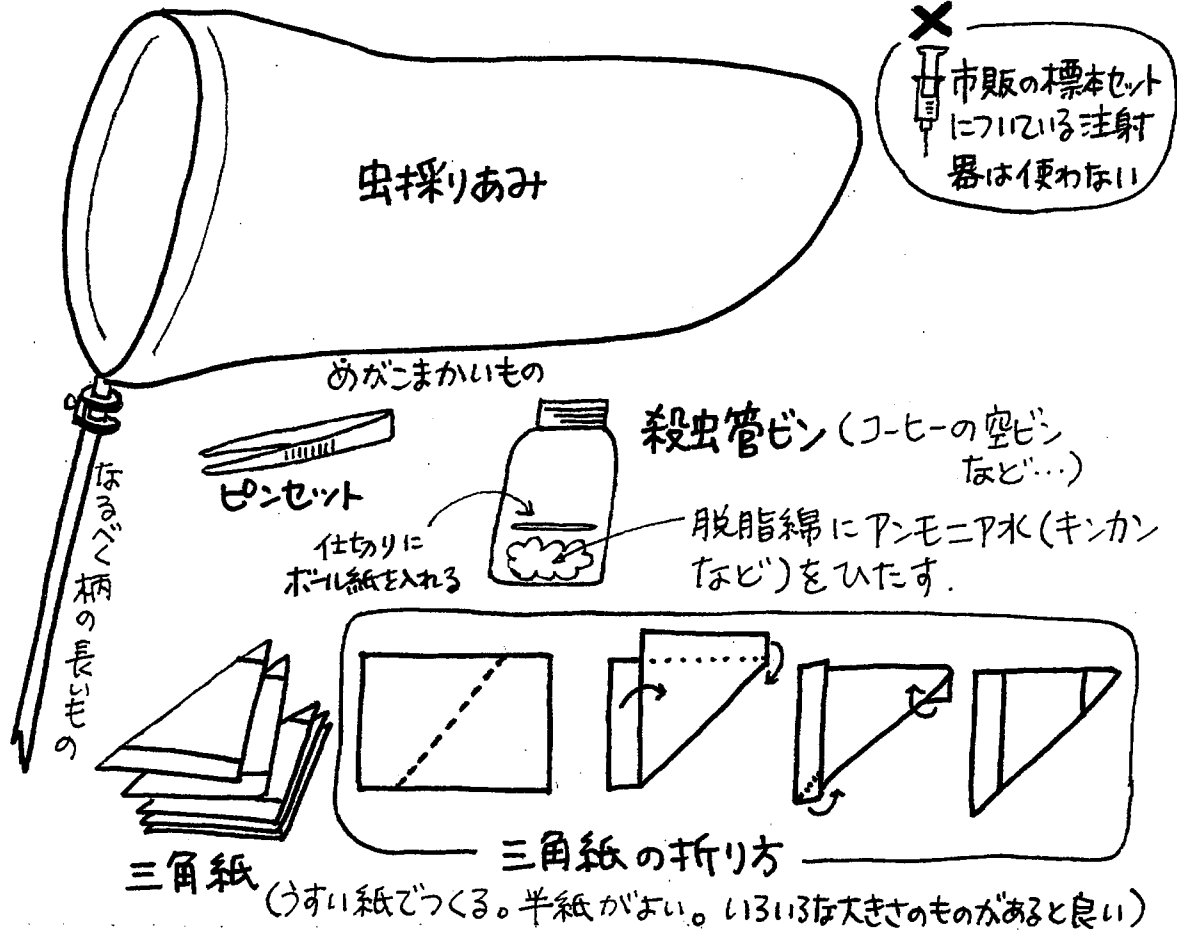
標本完成までの目安

昆虫標本 1ヶ月ぐらい

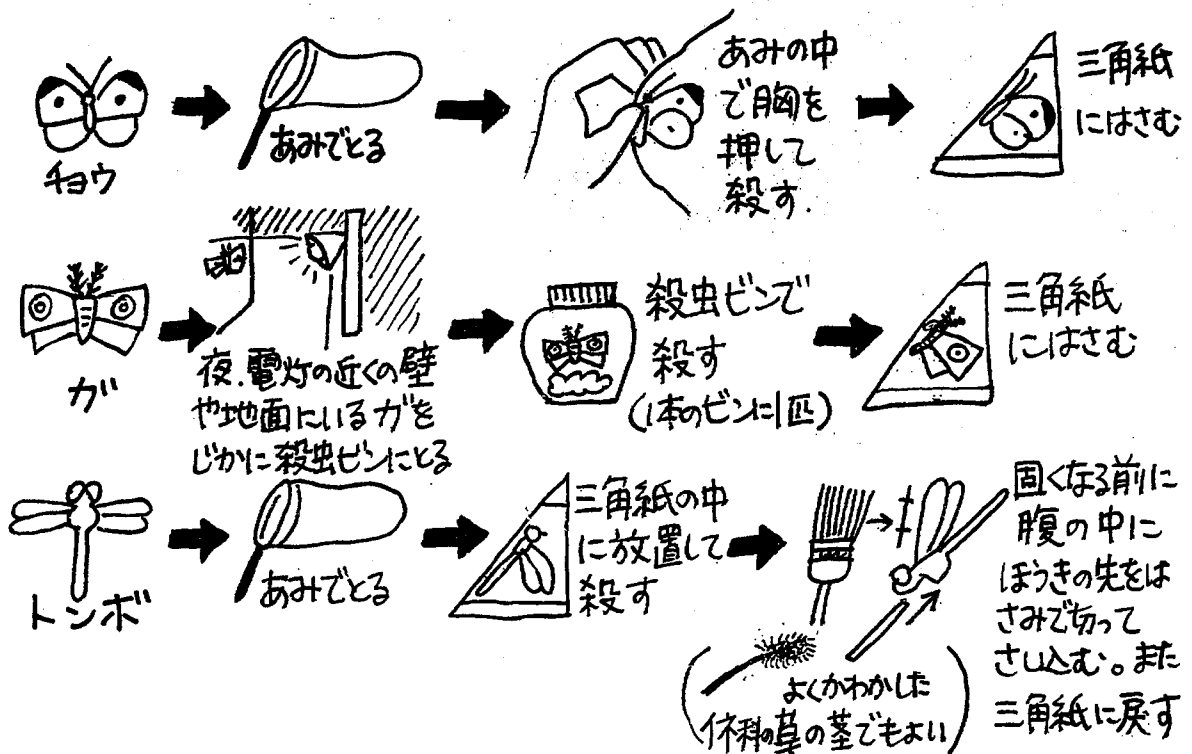


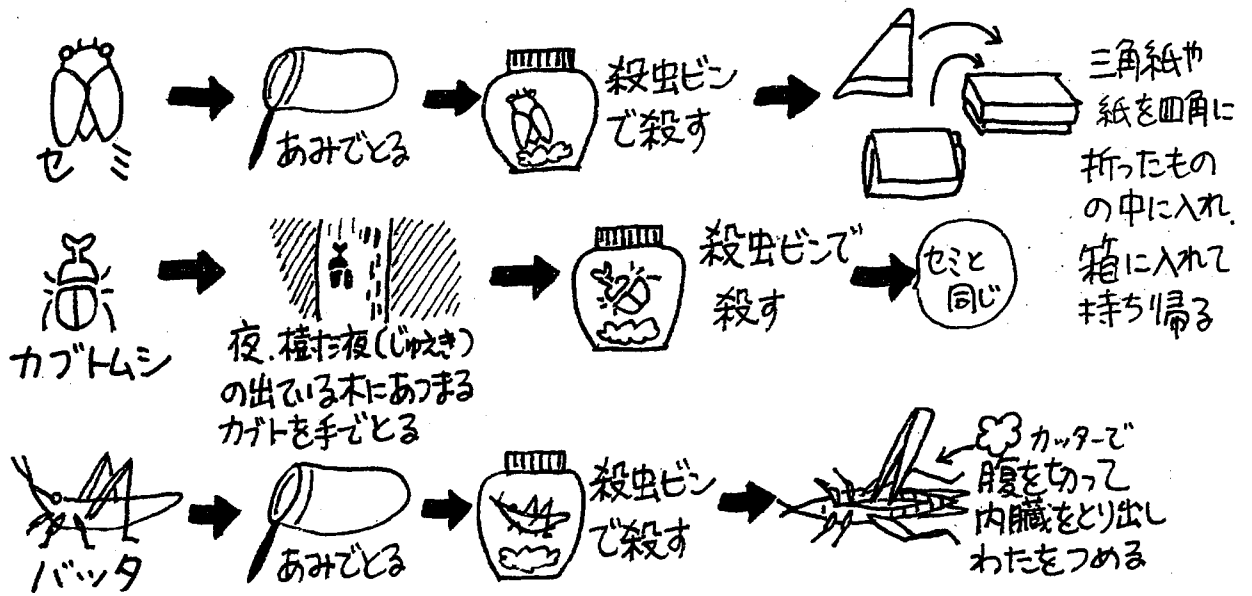
1. 採集

1) 必要な道具



2) 採り方と採った後の処理





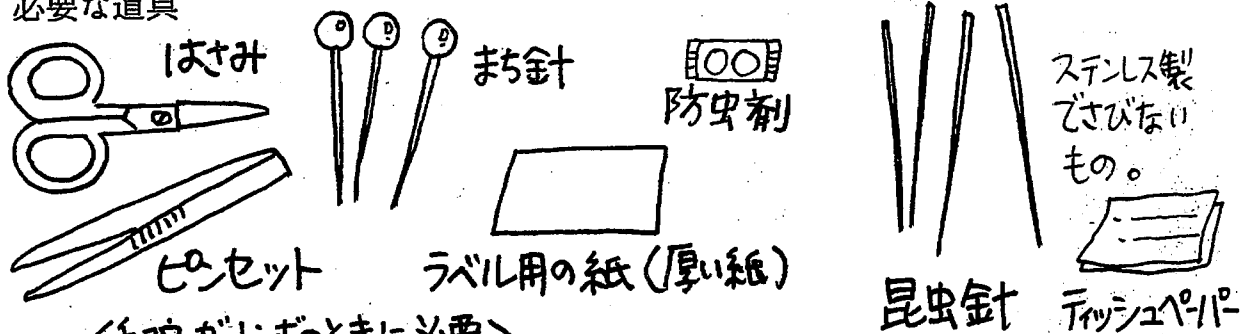
3) 採集する時の注意

- ①. 夜採集に行くときは、必ず大人と一緒にいきましょう。
- ②. 小さな昆虫は手でつかむとつぶれてしまうので、ピンセットをつかいましょう。
- ③. 虫を殺す薬は、大人にビンに入れてもらい、入れすぎないようにしましょう。
- ④. 虫を殺すビンには、一度にたくさんの虫を入れると中であばれてよい標本ができませんので、1~2匹だけ入れましょう。
- ⑤. 採集して殺した昆虫は、できるだけその日のうちに標本にしましょう。
- ⑥. 採集が禁じられている場所や種類があるので、注意しましょう。

※採集した昆虫は、いつどこでとれたものか三角紙やビンにメモしましょう。

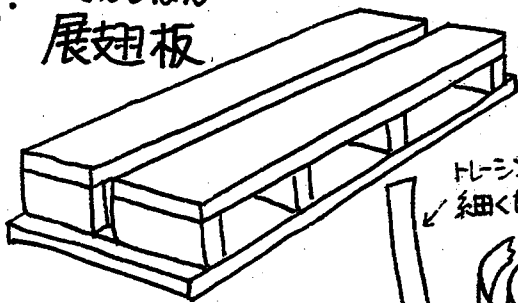
2. つくり方

1) 必要な道具



＜チョウ、ガ、トンボのときに必要＞

てんしばん
展翅板



トレーシングペーパーを細く切ったものもよい

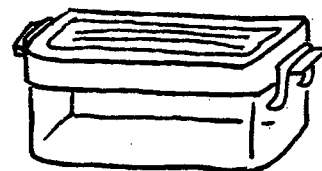


紙テープ

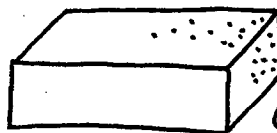
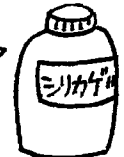


紙箱
(展翅板が入るもの)

＜カブトムシ、セミ、バッタのとき必要＞



密閉できる箱 と 乾燥剤 (シリカゲル)

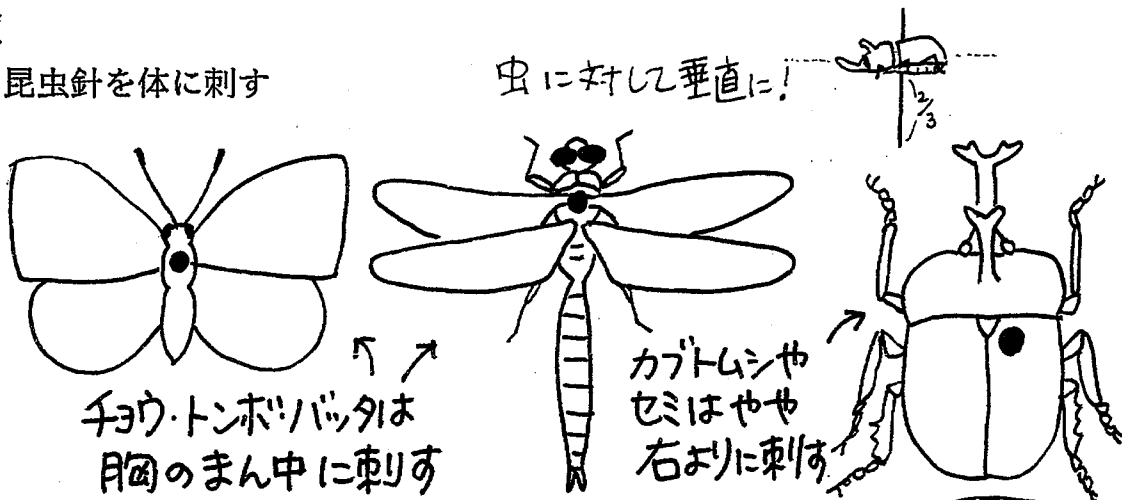


発泡スチロール

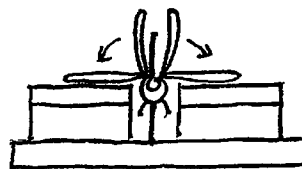
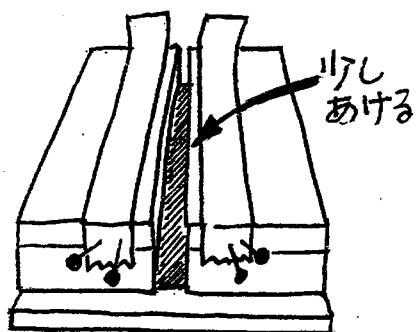
脱脂綿

2) 手順

1. 昆虫針を体に刺す



2-1. チョウ・ガ・トンボは、展翅板でハネをひろげる

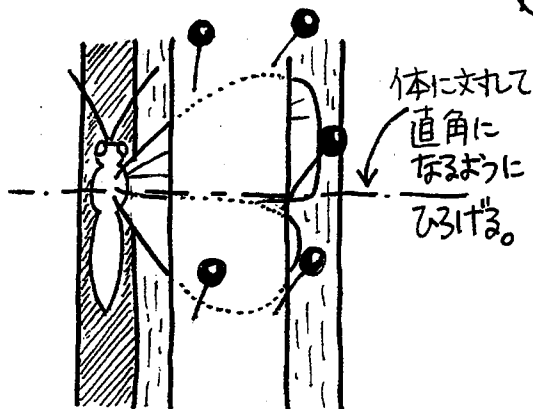
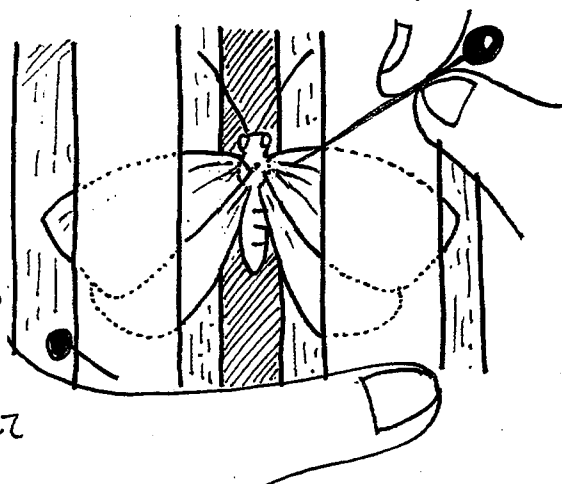


①ハネをおさえるための紙テープを溝にそって置き、片方の端を折り曲げてまち針でとめる。

②昆虫の位置が溝の中央で、ハネをひろげたときに水平になるように垂直に針をさす。



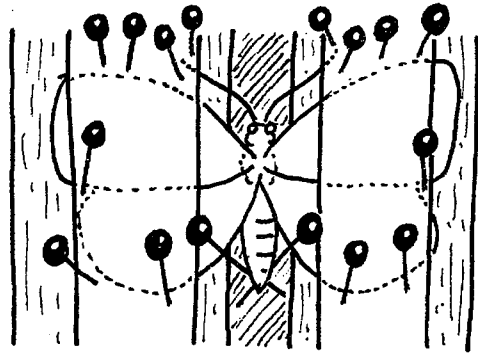
③ハネをひらいてテープをかぶせる



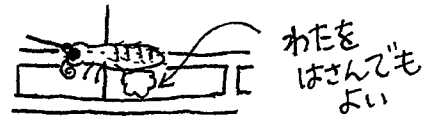
④テープを手で押さえながら、ハネの太い脈に針をひっかけて形よく引き上げる。

⑤形が決まったら、ハネのまわりのテープの部分をまち針でとめる。

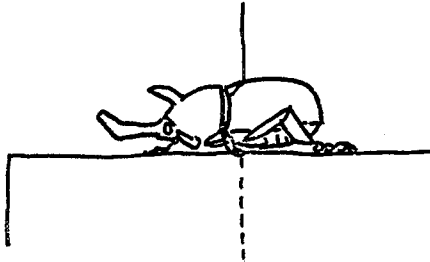
⑥右前バネ→右後→左前→左後の順に左右対象になるように、ハネをひろげる。



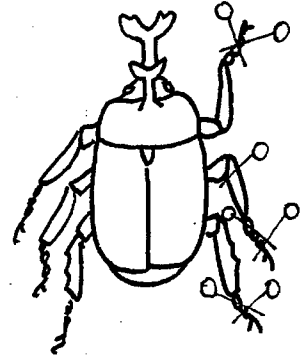
- ⑦触角をV字型に整える。
- ⑧腹部がハネと水平になるように、まち針をX字型に刺してとめる。



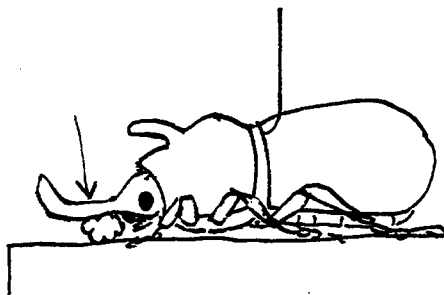
2-2. カブトムシ・セミ・バッタは、発泡スチロールの上で展足する



- ①発泡スチロールに真っすぐに針を刺す。昆虫が浮かないようにする。

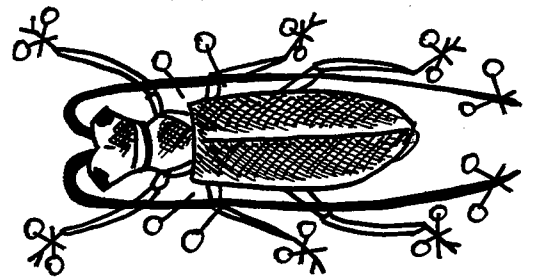


- ②まち針をX字型に刺して、足を形よく整える。(右前足→右中→右後→左前→左中→左後の順に)
- ※標本写真ののっている図鑑を参考にとするとよい。

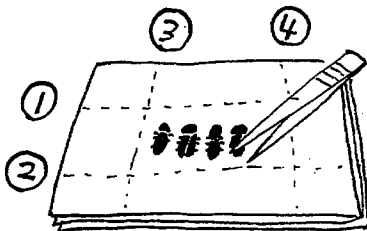


- ③頭が下がらないように、頭の下に綿をつめる。

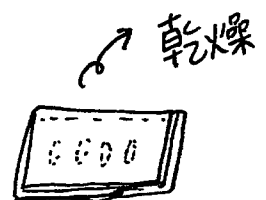
カミキリなどの時は
触角もきちんと整える →



2-3. 昆虫針を刺せない小さい昆虫は、ティッシュペーパーを3~4枚重ねて、その上でピンセットを使い足を整える。図のように折ってたたみ、乾燥させる。



- ①~②~③~④の順に折ってたたむ



※どの標本にも、いつどこでとれたものか書いたメモをつけておく。

3. 乾燥

チョウ・ガ・トンボ

展翅板ごと防虫剤を入れた紙箱に入れ、涼しくて風通しのよいところに1~2ヶ月置いておく。

カブトムシ・セミ・バッタや小さな昆虫

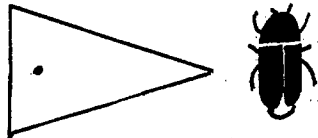
チョウ等と同じだが時間がかかるので、速く乾燥させたい場合は展足した発泡スチロールや三角紙ごと乾燥剤の入った密閉容器に入れ、2~3週間置いておく。冷蔵庫に直接入れて、乾燥させるのもよい。

※乾燥させている間は、ゴキブリにくわれたりカビやすいので注意！ ときどき点検すること。

防虫剤を入れた密閉容器に発泡スチロールを入れるととけちゃうので注意!!!

4. 仕上げ

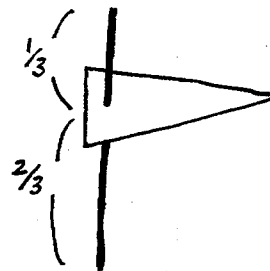
昆虫針をさせなかった小さな昆虫は、台紙にはりつけて昆虫針を刺す。



①昆虫の大きさにあわせて、名刺くらいの厚紙で小さな三角形の台紙を作る。



③台紙の先端に木工用ボンドをつけ、昆虫をはりつける。



②台紙に昆虫針をさす。



3. 整理

できあがった標本には、ラベルをつけます。そして、防虫剤を入れたお菓子の空き箱などに入れて保存します。

ラベルの例

市川市大町 ▲ 採集した場所
1994. 7. 9 ▲ 採集した日
大町太郎 ▲ 採集した人
少なくともこれだけは書き込む。

種名がわかったら、もう一枚つくり、
モシロヤウ その下にさします。

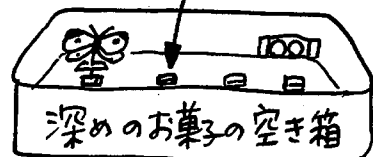
ラベルをさす位置



昆虫の高さを
よく見てきれい。

保存

コルクなどを小さく切って
箱の底にはる。



改訂版 標本のつくり方

発行 平成6年6月17日

第3刷発行 平成14年7月7日

編集 市立市川自然博物館